

「東北メディカル・メガバンク計画」について

平成24年5月10日

文部科学省

「東北メディカル・メガバンク計画」について

◆ 東北メディカル・メガバンク計画について

- 被災地の住民を対象として健康調査を実施し、医療情報ネットワークと連携しつつ、大規模なバイオバンクを構築。
- 健康調査を通じて被災地の住民の健康管理に貢献するとともに、バイオバンクを用いた解析研究により、個別化医療等の基盤を形成し、将来的には、東北発の次世代医療の実現を目指す。

※本計画は、被災地において医療復興や研究拠点形成等を目指すため、東北地区において事業を実施する。

◆ これまでの主な経緯

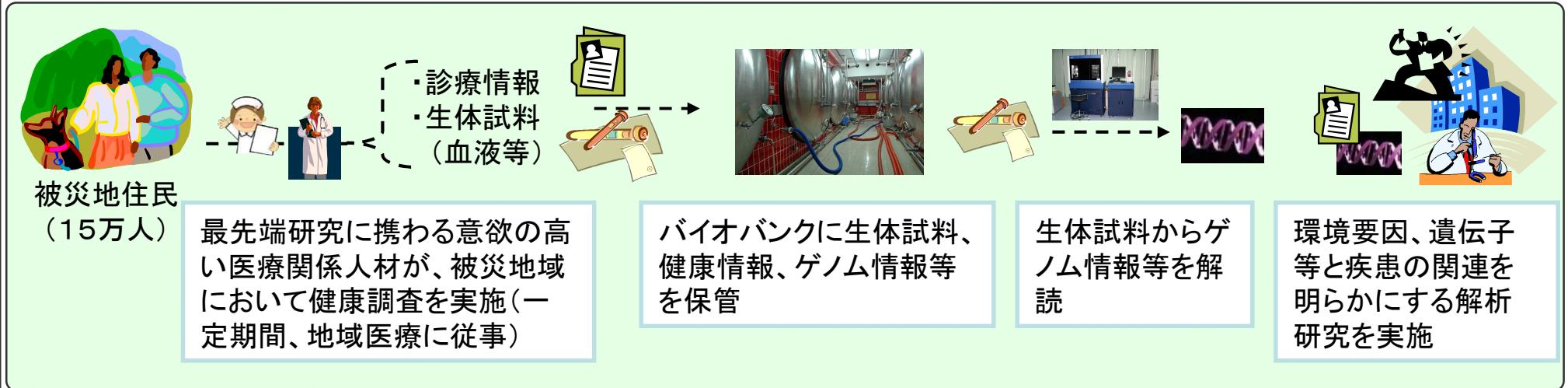
- ・第9回東日本大震災復興構想会議（平成23年6月11日）において、村井宮城県知事より、最先端診療と研究拠点としての「東北メディカル・メガバンク」の創設を提言。
- ・「東日本大震災からの復興の基本方針」（平成23年7月29日東日本大震災復興対策本部決定）において、『拠点機能形成の具体例』として記載。
- ・「日本再生の基本戦略」（平成23年12月24日閣議決定）において、『被災地で新成長戦略を先進的に取り組む主な施策例』として記載。
- ・平成23年度第3次補正予算で約158億円、平成24年度予算で約56億円を計上（※※）。

※※バイオバンク構築事業部分の予算。平成24年度予算は、復興特会として復興庁に一括計上されている



東北メディカル・メガバンク計画の実施内容と成果

被災地に医療関係人材を派遣して健康調査を実施し、15万人規模の生体試料、健康情報等が収集されたバイオバンクを構築。得られたゲノム情報、健康情報、診療情報等を併せて解析。



地域医療への貢献

- ・震災の健康影響の検証、健康調査の実施を通じ、被災地の住民の健康不安を解消
- ・意欲の高い医療関係人材が被災地に派遣され、地域医療に貢献

次世代医療の実現

- ・世界でも最大規模で、類を見ない特徴を持つバイオバンクを実現(※)
- ・個人のゲノム情報と解析結果を比較することで、病気の正確な診断や薬の副作用の低減、将来なりやすい病気の予測などの次世代医療を実現

※ 世界的なバイオバンク : UK Biobank(英国)…50万人規模、Personal Genome Project(米国 他)…10万人規模 等

「東北メディカル・メガバンク計画」の取組

平成24年2月 ・**東北大学の学内組織**を設置(東北メディカル・メガバンク機構)

3月 ・**地方自治体**(気仙沼市、石巻市、岩沼市等)との**調整を開始**

・本計画に我が国の叡智を結集し、文部科学省や実施機関に提言することを目的とした「**東北メディカル・メガバンク計画検討会**」を設置

秋頃 ・**被災地を対象とした調査を開始**(健康調査中心)

被災地特有の疾患(PTSD、うつ病、感染症等)を含め調査を行うとともに、その結果に基づき健康上の助言、生活指導等を実施することで住民の健康管理に貢献

医療情報とゲノム情報等を活用した個別化医療の実現化推進方策について、平成24年度中にとりまとめ【医療イノベーション推進室】

平成25年度 ・平成24年度の結果等を踏まえ、**本格調査を開始**

平成28年度 ・**15万人規模**のバイオバンクの構築



次世代医療の実現のための基盤の形成

平成29年度以降 ・わが国の他の研究機関、バイオバンクと連携しながら、**個別化医療等の次世代医療の実現を目指す研究開発**を推進。また、**得られた成果を活用した創薬等の研究開発**を推進。



個別化医療の実現へ!

・**専門家によってWGを設置**し、健康調査の実施方法、倫理的課題、解析研究の手法等の**詳細計画**について検討

・得られた生体試料、健康情報、診療情報等を用いた**解析研究を実施**

次世代医療の実現に向けた法制度の整備の必要性の検討【医療イノベーション推進室】